

Partner

パートナー Vol. 46 2014.3 藤市

藤市男女共同参画情報紙

パートナーとは…
女性と男性が共に明るい地域
社会を築き上げようという意
味と、市民の皆さんと市が共
に手をたずさえていこうとい
う願いが込められています。



特集 見つけよう 自分らしい働き方



あなたの眠っている夢は
なんですか？
自分らしいスタイルを見つけて
動き出してみませんか？



藤で何か始めたい
あなたに！

あなたの再チャレンジを応援！

NPO 法人子育て応援クラブむくむくが、
藤市協働事業提案制度で採択された「起業
を目指す女性のためのフェスティバル in
warabi」が、1月19日（日）に文化ホー
ルくるるで開催され、約200名が参加しま
した。

エステやネイル、雑貨販売など20のブ
ース出店の他に、講演会やパネルディスカ
ッション、起業相談デスクなどがあり、参
加者は熱心に耳を傾けていました。

（社）日本コミュニケーション育児協会
代表理事の滝田加奈子さんによる起業講演
会では、「資格を持っているママは多いの
に、実践する人が少なくてもったいない！

子どもがいるからできないとあきらめてい
ませんか？ママだからできることがあるは
ず。主婦経験・出産子育て経験は、立派な
キャリアです！」という話が印象的でした。

また実際に起業された4人の女性による
パネルディスカッション「子育てしながら
働くとは」では、パネラーの4人共、子育
てをしながら元の仕事に復職することの難
しさ、また自分自身が出産や子育てのとき
に大変だったこと、精神的にまいってしま
ったことから、他の同じような気持ちの人
を助けたいという思いが原動力になってい
るんだなと思いました。

「ママの笑顔を広げたい！それが社会の笑
顔につながっていきます！」という言葉に、自
分にも何かができるかも！と思えたのでは、

わらびの起業のヒントはここにある！？

ワンディシェフレストラン「ぷらっと」
飲食店を目指す人の日替わりレストラン。
利用申込は「まちれん」に。

通称「まちれん」
正式には、藤市にぎわいまちづくり連合会（ホームページあり）
「空き店舗有効活用事業補助金制度」のご案内をしています。
営業時間：9時～17時（土日祝休）

たまたま箱利用申込所（峰岸靴店）
店主の明石哲平さんは、たまたま箱運営委員
会の代表。レンタルボックスを使いたい方は、
明石さんにお申込を。笑顔がステキ！
電話 048-431-2564

藤ふれあいステーション たまたま箱
営業時間：11時～18時
レンタルボックス数：58個
（月3,500円&2,500円）
レンタルスペース：2個（月15,000円）
レンタル期間：原則3ヶ月
管理費：売り上げの5%
店当番：2人1組で月1回程度
（日1人1,500円手当てあり）

藤商工会議所
市内の中小企業の支援をする経済団体。
起業相談もOK！会議室の利用もできま
す。（有料）
営業時間：8時30分～17時（土日祝休）
電話：048-432-2655

市民生活部の商工生活室（2階）です。
電話：048-433-7750

「たまたま箱」は、いま！
平成15年6月のオープンから10年です。「こんな
に続くとは思わなかった」と代表の明石さんのうれし
い感想。商品は、手作りアクセサリーが多いようで
すが、中には掘り出し物もあるとか。ここをステップに
教室の開催やデパートに販路をつなげる人もいよう
です。
空き店舗が目立つ西口商店街。「子どもや高齢者が気
軽に立ち寄れる場所作ってみたい！」と思っている人も、
きっといると思います。アイデアの公募チャンスがある
といいですね。



起業しました

きっかけは、「おっかけ？」

(株)フォーシーズンズ代表

こもり たかのぶ
小森 剛伸 さん(南町在住 40代)

—起業内容は?
運送業です。コンサートなどのイベント関係の機材の運搬や搬入で、舞台づくりを手伝うこともあります。

—起業のきっかけ
若い時からコンサートが好きで、それに関係する仕事に就きたいと思っていました。一度運送会社に勤めましたが、安全性を無視したやり方があわず辞めて、2004年頃は母のクリーニング店を手伝っていました。でも運送業があきらめきれず、自分でトラックを借りて始めました。2007年、親しくなった顧客の後押しで会社を作りました。

—良かったこと
社員は3人ですが、会社にしたことで大きな事務所と取引がで

き、銀行からの融資も受けやすくなったことです。信頼を得ながら、本気でアーティストたちと働きたいと思っています。

—心がけていること
地方公演などは長期不在になりますが、近場は中3、小3、3歳の子どもがいるので無理してでも帰るようにしています。接する時間が短いので、なるべく声をかけたり触れ合うようにしたり。もちろん、奥さんにも感謝の気持ちは伝えていますよ。仕事では、安全第一で無理なシフトは作らないことにしています。

—起業を考えている人へ
何があっても、自分で責任をとる覚悟は必要。そして、大変なときに声をかけてくれる人のありがたさを忘れないことかな。

あなたにもできる！ 起業

子育てや介護と仕事の両立が難しいと感じた人たちが新たな働き方を模索して「起業」にたどり着いています。

起業を難しく考えないで、まずやりたいことを考えてみる！

今、国や県なども起業を後押し。チャンス！

起業には「勉強」と「人脈作り」が大切！



起業したい

友人に勧められて初挑戦

主婦

かねこ みゆ
金子 美華 さん(中央在住 30代)

—起業したい事業内容は?
アクセサリをメインにしたハンドメイドの商品のネット販売です。

—今回のフェスタに参加して初めて自分の作品を販売しました。周りの出店者の作品を作り上げるパワーに圧倒されました。

—これまでのキャリアは?
劇団に所属して司会の仕事を

していました。その後いくつかの職種で派遣として働き、結婚を機に専業主婦になりました。現在、4歳と2歳の2児の母です。

—起業のタイミングはいつ?
夫は主婦業を優先にし、空いている時間にやるならOKと言っています。私も子育てを優先したいので今はまだ無理かと思っています。でも時期が来たら挑戦したいです。

出店者の声

起業を目指す女性のためのフェスティバル会場で聞きました

根本 美香さん(ハンドマッサージ・ボディケア)
マッサージ師として働いていましたが、体調を崩してしまい退職。自分が納得できる施術をすることや今後の体調も考え起業を決意しました。心も身体も癒せるセラピストになりたい。

菊原 なおみさん・藤田 円さん(自然療法健康相談)
体調を崩した時、病院では病名も分からず改善しませんが、自然療法に出会い体調も改善。同様に病院で改善されない悩みを抱える人たちに知ってもらえたらと、起業しました。知名度が低いので、これからもがんばって活動していきたい。

参加者の声

・現在妊娠中で、出産後に起業を考えています。既存の制度、施設ではケアできない家庭、子育て困難な人達の応援施設を作りたいが、収入につながらない不安があり無料起業相談デスクで相談しました。(蔵市・女性)

・家族で来ました。今日は妻の知人のブースを見に来ました。起業は考えてないと思うが、(起業を)したいと言われたら応援する。手伝えるところは手伝っていききたい。(蔵市・男性)

・現在、起業して親子の教室を開催しています。虐待を減らしたいという思いがあり、そのための交流場所(カフェ的な場所)を作りたいと思い相談しました。(さいたま市・女性)

・起業を考えていて、どんな事業があるのかなどヒントを得たいと思い来ました。出店者の方に話を聞いたり、チラシなどをいただいたりしました。(さいたま市・女性)

今回5年越しで、地元蔵で起業フェスタを実現することができました。大規模な催しは初めてでしたが、今回のフェスタが誰かの転機になればうれしいなと思っています。

私自身は3人目の子どもの出産の時、育休が取れず退職しました。看護師の経験を生かしマッサージ事業を始めるところ、同じように子育ての悩みを持つママたちが利用客に多いことに気づきました。手助けを必要としている女性たちの力になりたいと「むくむく」を設立。川口を中心に子育て情報の発信とママのスキル・才能を生かす場の支援をしています。

「ママが生きがいを持っているほうが子育てがうまくいく！」を信条に皆さんに頼りにされる団体になれるよう頑張っています。

起業を支援

ママたちが輝くために！

NPO法人子育て応援クラブむくむく代表

おかもと ひろこ
岡元 弘子 さん(塚越在住 40代)



蔵市男女共同参画NEWS

※安心してDV相談できる体制「蔵市DV防止基本計画に基づき、2月にDV対策庁内連絡会が設置されました。これは、DVの防止とDV被害者に対する総合的な支援を行うために、新たに設置されたものです。

※これからの10年、さらなる男女の協力を4月から始まる蔵市男女共同参画パートナーシッププラン(第2次)は、男女共同参画の視点に立った地域防災の推進や男性の家事・育児・介護等への参画促進が新たに加わりました。平成35年度までに「男女が平等で自分らしく活躍できるまち蔵の実現」を目指します。

編集後記

私もフェスティバルでネイルを体験しました。とてもきれいにしてもらって、その後数週間ネイルを見るたびに気分も明るく過ごしています。また会場を訪れて、これほどたくさんの方が起業を考えているのかと、正直驚きました。女性のパワーが起業にかきさらず、あらゆる方面で発揮できれば良いな感じました。(く)

プチ起業体験も！

「女性のための起業講座」を開催

1月15日～2月19日まで、商工生活室の主催で5回にわたって開かれた講座には、30代から50代まで20名が参加しました。女性起業家の見学会や個別相談をはじめ、講師の永沢映さん(NPO法人コミュニティビジネスサポートセンター代表理事)から、起業のノウハウを教わった皆さんは、起業の夢を膨らませていました。

パートナー第46号
二〇一四年三月一日発行
企画編集 パートナー編集委員会
事務局 蔵市市民生活部市民活動推進室
編集委員 大石圭子 加藤光男 蔵迫祥子
杉山節子 竹口素弘 新妻朋子
〒335-8501 蔵市中央5-14-15
電話 048-4433-7745
Eメール siminst@city.warabisaitema.jp